

特定非営利活動法人 京都海外協力協会

KOCA NEWS

Vol.14

11
2025



A repair of a handpump well in Rwagamana of Rwanda,
photographed by Katsuhito Nishimura (2021-3/ Rwanda/ Community Development)

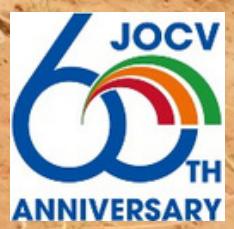


TABLE OF CONTENTS

TOPIC

Table of Contents	02
2025年度1次隊表敬訪問	03
2025年度1次隊の皆さんいってらっしゃい！	04-05
国際交流会を開催 / 京極ダイニングでKOCA壮行会を開催	06
万博「マラウイ共和国ナショナルデー」を祝う	07
JICA海外協力隊員 現地レポート「セトウニヤらいふ 第6話」	08
JICA海外協力隊員 現地レポート「第6話 ドミニカマンゴー祭り」	09
JICA海外協力隊員 現地レポート「大切なコミュニケーションの場の「チャイ・タイム」 第6話」	10
JICA海外協力隊員 現地レポート「マダガスカルの人々と共に Vol.6」	11
JICA海外協力隊員 現地レポート「マイペンライフ Vol.8」	12
JICA海外協力隊員 現地レポート「何もできない日の価値 第1話」	13
JICA海外協力隊員 現地レポート「ソフィーの活動通信inベナン vol.2」	14
国際交流イベント「SPORTS DAY」」報告	15
JOCA令和7年度評議員および第14回定時社員総会 / Event Schedule	16

JICA海外協力隊60周年

1965年に、ラオス・カンボジア・マレーシア・フィリピン・ケニアの5か国に派遣されて以来、JICA海外協力隊は今年で60周年を迎えます。

これまで農林水産、保健・医療、社会福祉、商業・観光等含む9つの分野、190以上の職種で隊員が活動し、2024年12月には累計派遣隊員数は約57,000人となりました。

60周年記念事業のテーマは、「世界と日本を変える力」です。

JICA海外協力隊60周年を記念して、KOCAでは、京都にいながら世界と触れる機会を作り、JICA海外協力隊の経験を多くの府民に伝える活動をして、ロゴマークが意味する「日本と開発途上国をむすぶ架け橋」となって府内での国際交流・国際協力に貢献します。



京都府と世界の架け橋に

～2025年度1次隊 表敬訪問～



▲大山崎町表敬訪問 7月7日



▲京都府庁表敬訪問 7月8日



▲京都府JICAボランティア応援団様による茶道体験



▲福知山市表敬訪問 7月14日



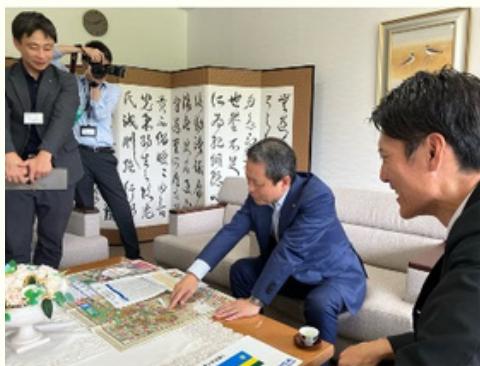
▲京都市表敬訪問 7月16日



▲京都市役所屋上にて



▲木津川市表敬訪問 7月17日



▲京田辺市表敬訪問 7月18日



▲城陽市帰国後表敬訪問 7月24日

JICA海外協力隊2025年度1次隊6名が派遣前表敬を行いました。また、現地での活動を終えて2025年3月以降に帰国した隊員のうち3名が、京都府と京都市、城陽市に帰国後表敬を行いました。

京都府庁では、京都府JICAボランティア応援団様による茶道体験と京都セットのお土産をいただきました。京都市役所では、表敬後、職員の方々に屋上を案内していただきました。

6名の新隊員は、7月29日と8月4日に、任国へと飛び立ちました。

京都府から1,300人の協力隊隊員が派遣され、うち650人が京都市から派遣され、現在約40人が任国で活動しています。関西万博が開催された2025年は、シンバブエ隊員が3ヶ月間、シンバブエの魅力を伝えるためにシンバブエ国の一員として万博へ派遣されたこともあったそうです。

2025年度1次隊のみなさんは、どのような活動を展開するのでしょうか。安全と健康に留意しつつ、世界の架け橋となって活躍を祈ります。

2025年度 1次隊

みなさん、
いらっしゃい！



派遣国：マダガスカル
職種：体育

佐々木 舞華

応募したきっかけ

高校生の時にOVの方の話を聞いて、私もいつか行ってみたいなと思いました。

訓練所での思い出

面白い人とたくさん出会えたこと

趣味と特技

登山とバスケットボール

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

とっても楽しみです！健康第一でがんばります！



派遣国：パプアニューギニア
職種：小学校教育

金本 隼太

応募したきっかけ

昔から海外で生活したい、働きたいと言う思いがあり、青年海外協力隊も1つの選択肢でした。しかし、あと1歩決断する勇気がもてませんでした。そんな時職場の同僚から、過去に協力隊に応募したが家庭の事情で行けなくなった、と言う話を聞きました。その話を聞いて、行くチャンスがあるなら行こうと決心しました。

訓練所での思い出

主催したバク転教室で、たくさん的人がバク転に挑戦し喜んでもらえたこと。

持参したコーヒー器具でハンドドリップコーヒーをたくさんの人々に振る舞い、喜んでもらえたこと。

趣味と特技

器械体操、テニス、ピアノ、コーヒー

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

これまで培ってきた指導力が、海外でどれほど活かせるのか楽しみです。パプアニューギニアの学力アップに貢献できるようがんばります。また、自分の挑戦が多く人の刺激になればいいなと思います。



派遣国：ルワンダ
職種：青少年活動

福井 貴士

応募したきっかけ

20年以上市役所に勤務していますが、年々増加する在留外国人に対し、今後どのようなサービスや情報が求められるのかを見出すため、一度自分自身がマイノリティになってその答えを探りたいと考え、応募しました。

訓練所での思い出

70日間すべてが本当に素敵なお時間でした！

様々な年齢、職業、経験をされた方々と一緒に生活を共にし、あらためて自分自身の見識の無さに気づけたことで、今後も研鑽を積まなければならないと意を新たにしました。また、やさしくて温かいメンバーにも恵まれ、苦しい語学学習もなんとか乗り越えることができました。

趣味と特技

おいしいものを食べること、温泉、テニス、スノボ

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

海外へ行った経験がほとんどなく、しかもアフリカで長期間生活をすること、健康面や生活面、言語など不安だらけですが、人生一度きり、精一杯ここでしかできない経験をしたいと思います！

2025年度 1次隊

辰井 美凪



派遣国：グアテマラ
職種：小学校教育

応募したきっかけ

- ・教員をしていて、子どもたちに挑戦してほしいと願っていましたが、まずは自分が挑戦する姿を見せよう！と思ったから。
- ・自分の経験を子どもたちに伝えることで、彼らの将来への視野を広げたいと思ったから。

訓練所での思い出

- ・毎朝(時々寝坊)6時からランニングをしていたこと
 - ・訓練生の中にバック転を教えてくれる方がいて、練習させてもらったこと
 - ・アルティメットに興味を持ってもらえて、多くの方と関われたこと
- 違う職種や年代の方々と出会うことができ、みなさんのお話を聞くことがすごく楽しかったです！！

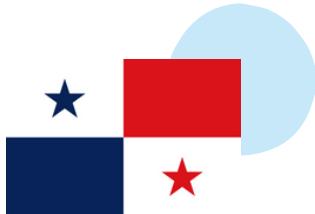
趣味と特技

運動(アルティメット)

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

周りの方々のおかげで今の自分がいることへの感謝を忘れず、自分ができることを精一杯やり切りたいです！そして健康安全に気をつけて、無事に日本へ、家族のもとへ帰ります！

中田 香奈



派遣国：パナマ
職種：小学校教育

応募したきっかけ

中学の時に海外協力隊を知りいつか行ってみたいとずっと思っていました。教員になり、今なら何か出来るかも！と思って応募しました。

訓練所での思い出

友達とコンビニまでアイスを買いに歩いたり、体育館でバトミントンや運動んしたこと

趣味と特技

料理

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

まずは、健康、安全第一で、向こうの文化や人々との関わりを楽しみたいです！

川上 千晶



派遣国：カンボジア
職種：学校保健

応募したきっかけ

友達とのインドネシア旅行で、地元の子供達のポジティブな表情をみて、途上国の教育や文化に興味を持ち、応募しました。

訓練所での思い出

語学がとても大変でしたが、友達もでき、聞いたこともない国も知って、地球ってどこでもいけるんだと気づくことができた訓練生活でした。

趣味と特技

登山

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

不安もありますが、健康第一に楽しみたいと思います！

INTERNATIONAL GATHERING



TOPIC

国際交流会を開催

2023年4月に試しに始めた国際交流会は、回数を重ねてだんだんと定着してきました。

6月29日（日）は真夏のよう暑い日でしたが、ゲストハウス京都インに、イタリア、キルギス、スリランカ、台湾、中国、フランス、マラウイ、日本から17名集まりました。6ヶ月の赤ちゃんから、保育園児、大学生、社会人まで揃って異世代交流にもなりました。

採れたてのトマト、きゅうり、なす、バジルなどで作るピザとサラダの美味しいことと言ったら、ほっぺたが落ちそうでした！ピザを作って食べるだけでなく、参加者の誕生日を祝い、カイロプラクティックの専門家に凝りをほぐしてもらい、子ども同士の微笑ましい交流に大人たちは目を細める場面もあり、なんとも幸せで楽しい時間となりました。



TOPIC

京極ダイニングでKOCA壮行会を開催



7月8日（火）、京都府表敬訪問を終えたあと、府庁から10分ほど歩いたところにある「京極ダイニング」で壮行会を開きました。パプアニューギニアに派遣される隊員のために、1998年にパプアニューギニアで活動したOVも応援に駆けつけてくれました。

また、一時帰国中の隊員が「協力隊の雰囲気に触れたくて」と参加してくれました。1次隊は、現職教員の参加が多いことが特徴で「10年の教員経験を活かして、現地の子どもの学力向上に貢献できたらいいな。協力隊経験を京都市の子どもたちに還元したい」など抱負を聞きました。「語学習得のコツは？」と情報をシェアしたり、帰国後の進路、婚活、人生設計まで話題が広がりました。